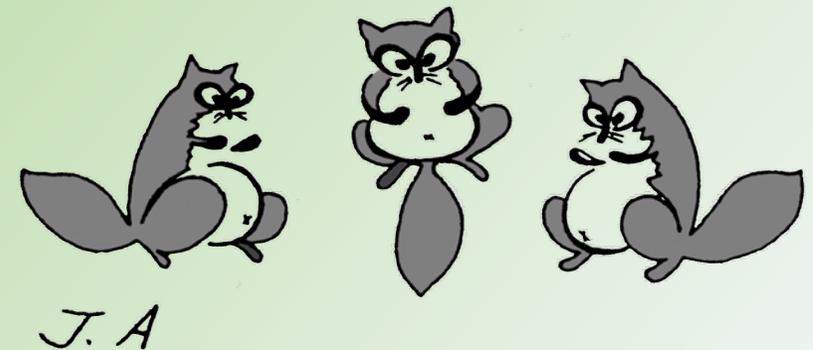
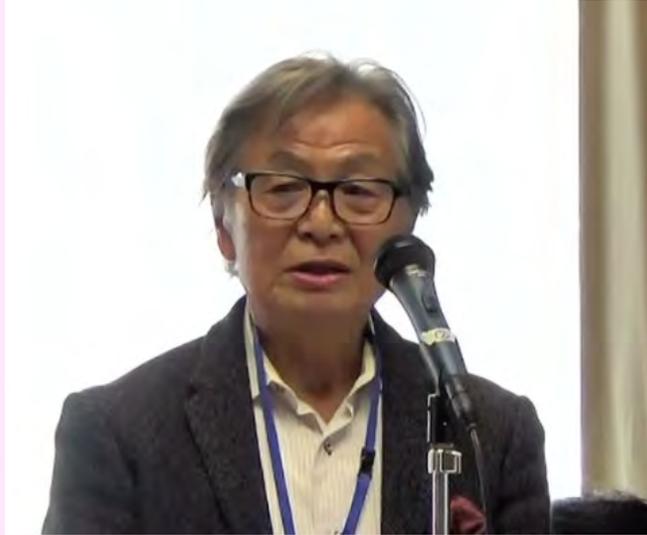


公益財団法人 渥美国際交流財団
2023年度春季研究報告会

当日の写真



J. A



総合司会の角田事務局長（左）と
開会挨拶をする渥美直紀理事長（右）

2023年度渥美奨学生春季研究報告会が財団ホールとオンラインのハイブリットで開催されました。

2023年度渥美奨学金受給者で本年度中に博士号を取得する予定の8名が、奨学期間中の研究成果を報告し、オンラインで参加してくださった指導教官、選考委員の先生方や会場の財団理事からコメントをいただきました。

また、秋に発表予定の2023年度奨学生が司会やタイムキーパーを務め、2024年度の奨学生もオーディエンスとして参加しました。



会場の様子



指導教官の呉人徳司先生（左）と財団理事の平川均先生（右）よりコメントをいただきました。

司会の黄若翔さん（左）とタイムキーパーの小美濃彰さん（右）

第二章 現代モンゴル語の代名詞

• 相互代名詞 **neg n' negnee** (お互い～) **n'** 再帰

A ティラノサウルス B サイ



エンファムガラン オノンさんの発表
「現代モンゴル語の複数性に関する表現の研究」



指導教官の倉持清美先生（左）と財団理事の施建明先生（右）よりコメントをいただきました。

司会のシムミンソプさん（左）とタイムキーパーの楠田悠貴さん（右）

● 問題意識

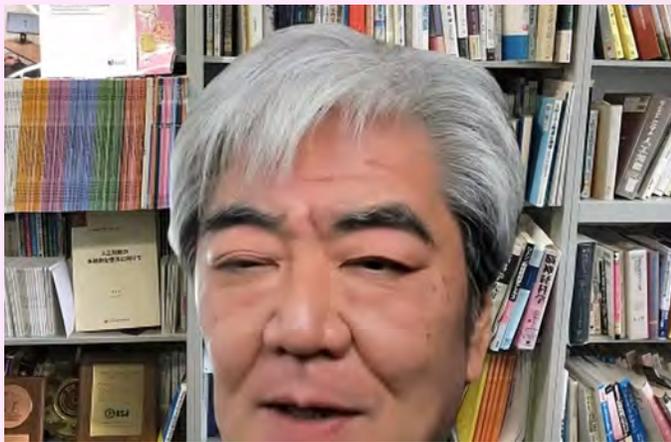
人類史において、子どもへの暴力や遺棄はほとんどの社会で生じたが、「児童虐待」とされていなかった。

<p>「子どもへの暴力」が問題意識</p> <ul style="list-style-type: none"> 1860年、フランスのAmbrois医師は、幼児の骨折や火傷は、養育者による傷害の結果だと主張したが、広く関心を集めることができなかった (Lynch et al, 1985) 	<p>「児童虐待」定義の出現＝身体的虐待 (child abuse)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1962年、アメリカの小児科医師Kempeは、幼児が養育者による身体的な傷害が「被虐待児症候群」とし、研究論文を発表し、世界的に反響を引き起こした 	<p>「児童虐待」定義の拡大→不適切な養育 (child maltreatment)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの権利思想が共有される中、21世紀以降、WHOの定義によれば、身体的・精神的暴力のみならず、育児怠慢なども「児童虐待」を意味している
--	--	--



何星雨さんの発表

「中国の若者における児童虐待の認識と子ども観—「子ども理解教育」の構想に向けて—」



指導教官の國吉康夫先生（左）と財団選考委員の金子成彦先生（右）よりコメントをいただきました。

司会の久後香純さん（左）とタイムキーパーの黄若翔さん（右）

結果

既知物体操作

未知物体操作

手法	注意+精密動作機構	注意機構	精密動作機構
平均成功率(%)	86%	29%	24%

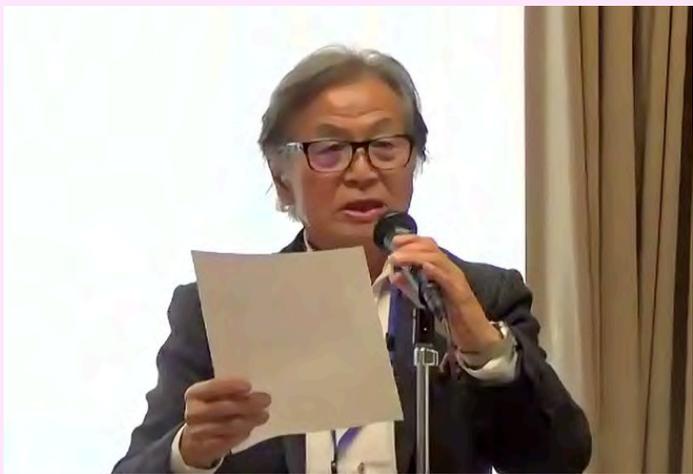
結論: 様々な既知・未知物体の操作が可能.

Intelligent Systems & Informatics Lab



金希哲さんの発表

「注意機構及び dual-action に基づく模倣学習による実ロボットの器用な物体操作」



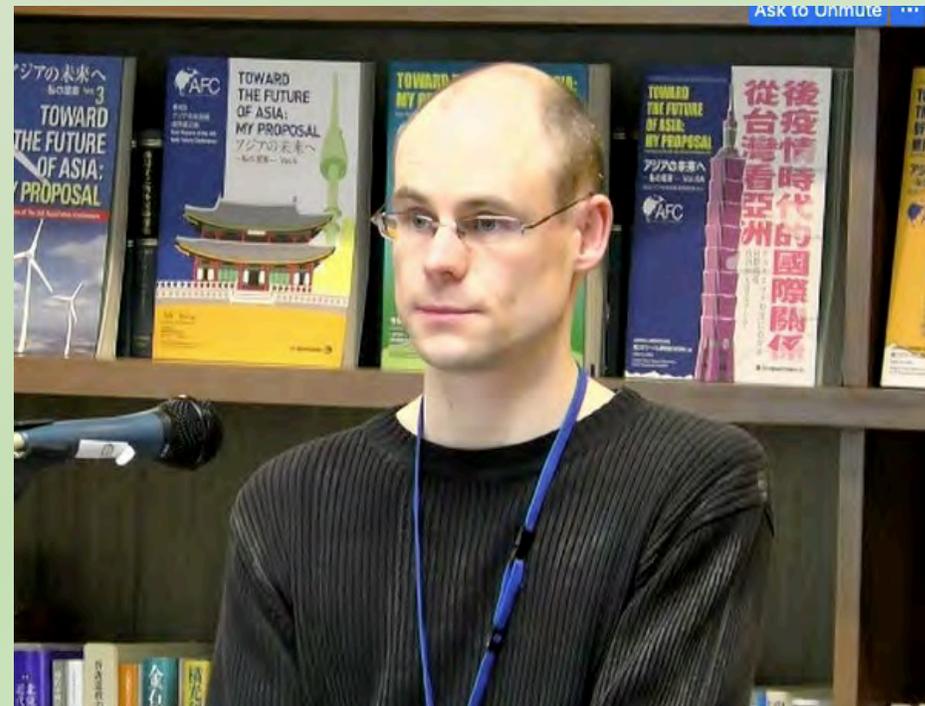
指導教官の中野目徹先生からのメッセージを角田事務局長（左）が代読し
財団理事の劉傑先生（右）よりコメントをいただきました。

司会の小美濃彰さん（左）と
タイムキーパーのシムミンソプさん（右）



ロバート クラフトさんの発表

「明治期における欧米中心主義的文明論と「日本の天職」の発見－内村鑑三・志賀重昂・三宅雪嶺を例に－」





財団理事の劉潔先生先生（左）と平川均先生（右）よりコメントをいただきました。

司会の楠田悠貴さん（左）と
タイムキーパーの久後香純さん（右）

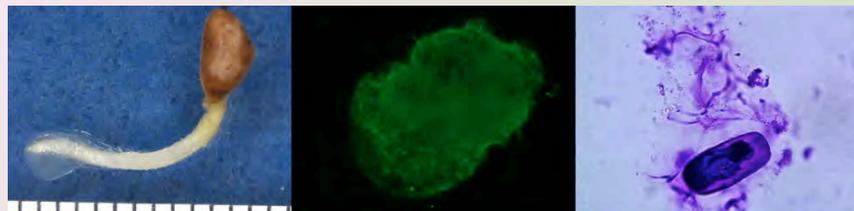


馬歌陽さんの発表
「五～六世紀における中国仏教美術の受容・展開及び諸地域の交錯—南朝時代を中心に—」



指導教官の福田健二先生（左）と財団理事の片岡達治先生（右）よりコメントをいただきました。

司会の黄若翔さん（左）と
タイムキーパーの小美濃彰さん（右）



アカマツ (*Pinus densiflora*) 初生根における
根細胞外トラップの機能と根圏細菌との相互作用

東京大学大学院農学生命科学研究科
白川 誠



白川誠さんの発表

「アカマツ(*Pinus densiflora*)初生根における根細胞外トラップの機能と根圏細菌との相互作用」



指導教官の天田城介先生（左）と選考委員の細田衛士先生（右）よりコメントをいただきました。

司会のシムミンソプさん（右）とタイムキーパーの楠田悠貴さん（左）

知的障害者家族の母親の“離れ難さ”の解明

問い・目的

「母親はいかにして、なにゆえ知的障害のある子への“離れ難さ”を感じてしまうのかを解明すること」

用語の定義：
 “離れ難さ”…「離れられない」のではなく、「わかっているけれども」ケアを担い続けてしまう、母親のアイロニカルな心情を表す言葉。



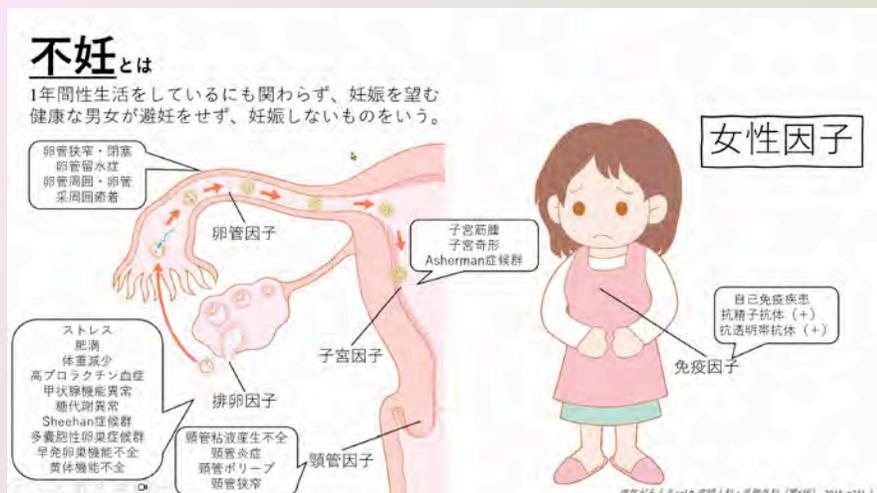
染谷莉奈子さんの発表

「母親はいかにして知的障害者のケアを担い続けているのか—障害者総合支援法以降に着目して—」



指導教官の原田美由紀先生（左）と財団理事の片岡達治先生（右）よりコメントをいただきました。

司会の久後香純さん（左）とタイムキーパーの黄若翔さん（右）



徐子焮さんの発表
「抗がん剤による早発卵巣機能不全における細胞老化の役割」



今西常務理事より閉会挨拶があり
2023年度春季研究報告会は無事に終了しました。





終了后会場では懇親会
が開かれ、会話に花が
咲きました。





最後までオンラインに残ってくださった皆さまと会場で集合写真を撮影しました。

ご参加くださった先生方、
どうもありがとうございました。
2023年度奨学生の皆様のご活躍を期待しています！